

東京書籍「精選文学国語」(文国 002-902)

■「国語から旅立って」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②日本語の特質 (2) ア	・筆者の多言語体験から日本語の特質を理解し、その内容を説明している。	・筆者の多言語体験から日本語の特質を理解している。	・筆者の多言語体験から日本語の特質を理解していない。
	③読書の意義 (2) イ	・筆者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解し、根拠とともに説明している。	・筆者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。	・筆者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・筆者が、自分と日本語との関係が始まったと考える出来事を読み取り、根拠とともに説明している。 ・筆者が、平仮名を覚えたときのことをどのように考えているか読み取り、根拠とともに説明している。 ・筆者が、中国語や台湾語を紙に書けなかったことをなぜ「不思議」なことだと思ったのか読み取り、根拠とともに説明している。 ・「他人の言葉でなく、自分の言葉で世界を見つめた」とはどのようなことかを読み取り、根拠とともに説明している。	・筆者が、自分と日本語との関係が始まったと考える出来事を読み取っている。 ・筆者が、平仮名を覚えたときのことをどのように考えているか読み取っている。 ・筆者が、中国語や台湾語を紙に書けなかったことをなぜ「不思議」なことだと思ったのか読み取っている。 ・「他人の言葉でなく、自分の言葉で世界を見つめた」とはどのようなことかを読み取っている。	・筆者が、自分と日本語との関係が始まったと考える出来事を読み取っていない。 ・筆者が、平仮名を覚えたときのことをどのように考えているか読み取っていない。 ・筆者が、中国語や台湾語を紙に書けなかったことをなぜ「不思議」なことだと思ったのか読み取っていない。 ・「他人の言葉でなく、自分の言葉で世界を見つめた」とはどのようなことかを読み取っていない。

	⑤考えの形成 読（１）力	・筆者の言語の捉え方を理解したうえで、言葉と自分との関係について考えをまとめ、説明している。	・筆者の言語の捉え方を理解したうえで、言葉と自分との関係について考えをまとめている。	・筆者の言語の捉え方を理解したうえで、言葉と自分との関係について考えをまとめている。
主体的に 学習に取り組む 態度	⑥考察	・言葉と自分との関係について考えをまとめ、話し合いを通してさらに考えを深めようとしている。	・言葉と自分との関係について考えをまとめようとしている。	・言葉と自分との関係について考えをまとめようとしていない。

■「書かれた風景の中へ」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②日本語の特質 (2) ア	- 筆者の読書体験から日本語の特質を理解し、その内容を説明している。 - 日本語について述べられた二つの随筆から日本語の特質を理解し、その内容を説明している。	- 筆者の読書体験から日本語の特質を理解している。 - 日本語について述べられた二つの随筆から日本語の特質を理解している。	- 筆者の読書体験から日本語の特質を理解していない。 - 日本語について述べられた二つの随筆から日本語の特質を理解していない。
思考・判断・表現	③内容把握 読(1) ア	- 筆者が、自分にとって「日本語を読む」ことがどのように始まったと考えているか読み取り、根拠とともに説明している。 - 古本屋で筆者は自分を見る周りの人たちの視線をどのように捉えていたか読み取り、根拠とともに説明している。 「風景は、すぐれて書かれた風景だった。詠まれた風景だった。」とはどのようなことを言っているか読み取り、根拠とともに説明している。	- 筆者が、自分にとって「日本語を読む」ことがどのように始まったと考えているか読み取っている。 - 古本屋で筆者は自分を見る周りの人たちの視線をどのように捉えていたか読み取っている。 「風景は、すぐれて書かれた風景だった。詠まれた風景だった。」とはどのようなことを言っているか読み取っている。	- 筆者が、自分にとって「日本語を読む」ことがどのように始まったと考えているか読み取っていない。 - 古本屋で筆者は自分を見る周りの人たちの視線をどのように捉えていたか読み取っていない。 「風景は、すぐれて書かれた風景だった。詠まれた風景だった。」とはどのようなことを言っているか読み取っていない。
	④考えの形成 読(1) カ	筆者の読書体験の理解を踏まえ、日本語の特質について考えをまとめ、根拠とともに説明している。	筆者の読書体験の理解を踏まえ、日本語の特質について考えをまとめている。	筆者の読書体験の理解を踏まえ、日本語の特質について考えをまとめている。
	⑤考えの比較 読(1) キ	日本語について述べられた二つの随筆を比べ、日本語の特質について考えを深め、説明している。	日本語について述べられた二つの随筆を比べ、日本語の特質について考えを深めている。	日本語について述べられた二つの随筆を比べ、日本語の特質について考えを深めていない。

主体的に 学習に取り組む 態度	⑥考察・話し合い	日本語について述べられた二つの随筆を比べ、日本語の特質について考えをまとめ、話し合いを通して、自分の考えを深めようとしている。	日本語について述べられた二つの随筆を比べ、日本語の特質について考えをまとめ、話し合おうとしている。	日本語について述べられた二つの随筆を比べ、日本語の特質について考えをまとめ、話し合おうとしていない。
-----------------------	----------	---	---	--

■「檸檬」ループリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②作品の理解 (2) ア	・作者の経歴や当時の時代背景を認識したうえで、作品への理解を深め、その内容を説明している。	・作者の経歴や当時の時代背景を認識したうえで、作品への理解を深めている。	・作者の経歴や当時の時代背景を認識しておらず、作品への理解も深めていない。
	③読書の意義 (2) イ	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義について理解し、根拠とともに説明している。	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・「私」の行動に即して場面分けをし、根拠とともに説明している。 ・「私」の現在の心理状態を読み取り、根拠とともに説明している。 ・現在の「私」の心がひきつけられたものについて、かつての「私」の心がひきつけられたものとの違いを理解しながら読み取り、根拠とともに説明している。 ・檸檬を買ってからの「私」の心情を読み取り、説明している。 ・檸檬の存在が、丸善に入る前と後ではどのように変化したか読み取り、説明している。	・「私」の行動に即して場面分けをしている。 ・「私」の現在の心理状態を読み取っている。 ・現在の「私」の心がひきつけられたものについて、かつての「私」の心がひきつけられたものとの違いを理解しながら読み取っている。 ・檸檬を買ってからの「私」の心情を読み取っている。 ・檸檬の存在が、丸善に入る前と後ではどのように変化したか読み取っている。	・「私」の行動に即して場面分けをしていない。 ・「私」の現在の心理状態を読み取っていない。 ・現在の「私」の心がひきつけられたものについて、かつての「私」の心がひきつけられたものとの違いを理解しながら読み取っていない。 ・檸檬を買ってからの「私」の心情を読み取っていない。 ・檸檬の存在が、丸善に入る前と後ではどのように変化したか読み取っていない。

	⑤解釈の多様性 読（１）エ	・過去と現在を区別して読み取り、「私」の心情や行動について考え、根拠とともに説明している。 ・友達の考えを聞くことを通して、さまざまな捉え方を理解し、その内容を説明している。	・過去と現在を区別して読み取り、「私」の心情や行動について考えている。 ・友達の考えを聞くことを通して、さまざまな捉え方を理解している。	・過去と現在を区別して読み取り、「私」の心情や行動について考えていない。 ・友達の考えを聞くことを通して、さまざまな捉え方を理解していない。
主体的に 学習に取り組む 態度	⑥考察・話し合い	・当時の「私」をひきつけ慰めたものと、抑えつけ憂鬱にさせたものが、それぞれ「私」にとってどのようなものとして描かれているかをまとめ、話し合いを通してさらに考えを深めようとしている。	・当時の「私」をひきつけ慰めたものと、抑えつけ憂鬱にさせたものが、それぞれ「私」にとってどのようなものとして描かれているかをまとめ、話し合おうとしている。	・当時の「私」をひきつけ慰めたものと、抑えつけ憂鬱にさせたものが、それぞれ「私」にとってどのようなものとして描かれているかをまとめ、話し合おうとしていない。

■「【読み比べ】小説の解釈を深める」ループリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②作品の理解 (2) ア	・作者の経歴や当時の時代背景を認識したうえで、作品への理解を深め、その内容を説明している。	・作者の経歴や当時の時代背景を認識したうえで、作品への理解を深めている。	・作者の経歴や当時の時代背景を認識しておらず、作品への理解も深めていない。
	③読書の意義 (2) イ	・作者の特徴や人柄を読み取ることを通して、その作品の見方、感じ方、考え方を深める意義について理解し、根拠とともに説明している。	・作者の特徴や人柄を読み取ることを通して、その作品の見方、感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・作者の特徴や人柄を読み取ることを通して、その作品の見方、感じ方、考え方を深める意義について理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・二つの文章から梶井基次郎という人物の特徴や人柄を読み取り、根拠とともに説明している。 ・作者の特徴や人柄が、「檸檬」のどのようところに表れているかを読み取り、根拠とともに説明している。	・二つの文章から梶井基次郎という人物の特徴や人柄を読み取っている。 ・作者の特徴や人柄が、「檸檬」のどのようところに表れているかを読み取っている。	・二つの文章から梶井基次郎という人物の特徴や人柄を読み取っていない。 ・作者の特徴や人柄が、「檸檬」のどのようところに表れているかを読み取っていない。
	⑤作品の解釈 読(1) オ	・作者について触れられた随筆や解説と作品とを比較し、作者の特徴や人柄を理解することで、作品の解釈を深め、その内容を説明している。	・作者について触れられた随筆や解説と作品とを比較し、作者の特徴や人柄を理解することで、作品の解釈を深めている。	・作者について触れられた随筆や解説と作品とを比較し、作者の特徴や人柄を理解しておらず、作品の解釈を深めていない。

主体的に 学習に取り組む 態度	⑥考察・話し合い	・二つの文章から読み取れる梶井基次郎の特徴や人柄と「檸檬」との関連について自分の考えをまとめ、話し合いを通して、さらに理解を深めようとしている。	・二つの文章から読み取れる梶井基次郎の特徴や人柄と「檸檬」との関連について自分の考えをまとめ、話し合おうとしている。	・二つの文章から読み取れる梶井基次郎の特徴や人柄と「檸檬」との関連について自分の考えをまとめ、話し合おうとしていない。
-----------------------	----------	--	--	---

■「最後のドッジボール」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②作品の理解 (2) ア	・登場人物の関係や心情の変化を場面ごとに整理しながら、作品を理解し、その内容を説明している。	・登場人物の関係や心情の変化を場面ごとに整理しながら、作品を理解している。	・登場人物の関係や心情の変化を場面ごとに整理せず、作品を理解していない。
思考・判断・表現	③内容把握 読(1) ア	・「黒いパソコン」のエピソードから、父の人柄を読み取り、根拠とともに説明している。 ・母が、わからない人のことを慈しむように笑みを浮かべた理由を読み取り、根拠とともに説明している。 ・「ドッジボールか？ という問いかけの輝き」とは、どのようなことを述べているのか読み取り、根拠とともに説明している。	・「黒いパソコン」のエピソードから、父の人柄を読み取っている。 ・母が、わからない人のことを慈しむように笑みを浮かべた理由を読み取っている。 ・「ドッジボールか？ という問いかけの輝き」とは、どのようなことを述べているのか読み取っている。	・「黒いパソコン」のエピソードから、父の人柄を読み取っていない。 ・母が、わからない人のことを慈しむように笑みを浮かべた理由を読み取っていない。 ・「ドッジボールか？ という問いかけの輝き」とは、どのようなことを述べているのか読み取っていない。
	④内容の解釈 読(1) イ	・「僕の手の手がはつきりと、へこみを感じ取っていた」という表現から、「僕」の気持ちを読み取り、根拠とともに説明している。	・「僕の手の手がはつきりと、へこみを感じ取っていた」という表現から、「僕」の気持ちを読み取っている。	・「僕の手の手がはつきりと、へこみを感じ取っていた」という表現から、「僕」の気持ちを読み取っていない。
	⑤解釈の多様性 読(1) エ	・子供のころの「僕」と、父親になった「僕」から見た父の姿の違いについて、考えを深め、根拠とともに説明している。	・子供のころの「僕」と、父親になった「僕」から見た父の姿の違いについて、考えを深めている。	・子供のころの「僕」と、父親になった「僕」から見た父の姿の違いについて、考えを深めていない。

主体的に 学習に取り組む 態度	⑥考察・話し合い	・自分の経験と比較しながら、親と子それぞれの生き方について考えをまとめ、話し合い、日常生活にも活かそうとしている。	・自分の経験と比較しながら、親と子それぞれの生き方について考えをまとめ、話し合おうとしている。	・自分の経験と比較しながら、親と子それぞれの生き方について考えをまとめ、話し合おうとしていない。
-----------------------	----------	---	---	--

■「【言語活動】小説の人称を書き換える」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き (1) ア	・小説の書き換えに必要な言葉を理解し、正しく選択して書いており、使用している以外の言葉や使われ方についても理解している。	・小説の書き換えに必要な言葉を理解し、正しく選択して書いている。	・小説の書き換えに必要な言葉を理解せず、正しく選択して書いていない。
	②小説の人称の理解 (1) ウ	・小説において、人称の違いにより読み手に与える表現効果が変わることを理解し、根拠とともに説明している。	・小説において、人称の違いにより読み手に与える表現効果が変わることを理解している。	・小説において、人称の違いにより読み手に与える表現効果が変わることを理解していない。
	③表現の技法 (1) エ	・小説における人称について理解し、人称を適切に書き換え、表現の効果を文章に生かしている。	・小説における人称について理解し、人称を適切に書き換えている。	・小説における人称について理解していないか、理解していても人称を適切に書き換えていない。
断 思考・判 ・表現	④文章の工夫 書 (1) ウ	・選んだ場面について、人称を変え、それに伴う必要な部分も書き換え、根拠とともに説明している。	・選んだ場面について、人称を変え、それに伴う必要な部分も書き換えている。	・選んだ場面について、人称を変えていないか、変えていたとしても、それに伴う必要な部分を書き換えられていない。
主体的に 学習に取り組む態度	⑤考察・話し合い	・小説における人称の選択と表現の特徴や効果の関係について、人称の書き換えを通して理解し、内容や表現の変化について話し合い、自分の表現にも生かそうとしている。	・小説における人称の選択と表現の特徴や効果の関係について、人称の書き換えを通して理解し、内容や表現の変化について話し合おうとしている。	・小説における人称の選択と表現の特徴や効果の関係について、人称の書き換えを通して理解していないか、理解していたとしても内容や表現の変化について話し合おうとしていない。

■「夏の姿」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・詩の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・詩の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・詩の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②詩の理解 (2) ア	・体言止めや倒置法などの作品の特徴的な表現とその効果を理解し、説明している。	・体言止めや倒置法などの作品の特徴的な表現とその効果を理解している。	・体言止めや倒置法などの作品の特徴的な表現とその効果を理解していない。
	③鑑賞の意義 (2) イ	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解し、根拠とともに説明している。	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・比喻を含む特徴的な表現の意味を理解し、詩の内容を読み取り、根拠とともに説明している。	・比喻を含む特徴的な表現の意味を理解し、詩の内容を読み取っている。	・比喻を含む特徴的な表現の意味を理解していないか、理解していても詩の内容を読み取っていない。
	⑤内容の解釈 読(1) イ	・「夏の姿」という題名に込められた作者の思いを、「夏」という言葉をもとに多角的に捉え、根拠とともに説明している。	・「夏の姿」という題名に込められた作者の思いを捉えている。	・「夏の姿」という題名に込められた作者の思いを捉えていない。
学習主体に組み込む態度	⑥解釈の提示	・象徴的な表現が示している内容を理解したうえで、描かれた情景や作者の心情を読み取り、まとめることを通して、作品への理解を深めようとしている。	・象徴的な表現が示している内容を理解したうえで、描かれた情景や作者の心情を読み取り、まとめようとしている。	・象徴的な表現が示している内容を理解したうえで、描かれた情景や作者の心情を読み取り、まとめようとしていない。

■「帰途」ループリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・詩の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・詩の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・詩の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②詩の理解 (2) ア	・詩の特徴的な表現や、リズムとその効果を理解し、説明している。	・詩の特徴的な表現や、リズムとその効果を理解している。	・詩の特徴的な表現や、リズムとその効果を理解していない。
	③鑑賞の意義 (2) イ	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解し、根拠とともに説明している。	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・「言葉のない世界」とはどのような世界か読み取り、根拠とともに説明している。 ・「ぼくはあなたの涙のなかに立ちどまる／ぼくはきみの血のなかにたつたひとりで帰ってくる」とはどのようなことを表現しているか読み取り、根拠とともに説明している。	・「言葉のない世界」とはどのような世界か読み取っている。 ・「ぼくはあなたの涙のなかに立ちどまる／ぼくはきみの血のなかにたつたひとりで帰ってくる」とはどのようなことを表現しているか読み取っている。	・「言葉のない世界」とはどのような世界か読み取っていない。 ・「ぼくはあなたの涙のなかに立ちどまる／ぼくはきみの血のなかにたつたひとりで帰ってくる」とはどのようなことを表現しているか読み取っていない。
	⑤内容の解釈 読(1) イ	・逆説的な表現の中に描かれた、「言葉」に対する「ぼく」の思いを読み取り、根拠とともに説明している。	・逆説的な表現の中に描かれた、「言葉」に対する「ぼく」の思いを読み取っている。	・逆説的な表現の中に描かれた、「言葉」に対する「ぼく」の思いを読み取っていない。
主体的に学習に取り組む態度	⑥解釈の提示	・詩の中で表現されている「言葉」に対する「ぼく」の思いについて考えをまとめることを通して、作品への理解を深めようとしている。	・詩の中で表現されている「言葉」に対する「ぼく」の思いについて、考えをまとめようとしている。	・詩の中で表現されている「言葉」に対する「ぼく」の思いについて、考えをまとめようとしていない。

■「小諸なる古城のほとり」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・詩の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・詩の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・詩の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②詩の理解 (2) ア	・詩の特徴的な表現や、文語の五七調のリズムとその効果を理解し、説明している。	・詩の特徴的な表現や、文語の五七調のリズムとその効果を理解している。	・詩の特徴的な表現や、文語の五七調のリズムとその効果を理解していない。
	③鑑賞の意義 (2) イ	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解し、根拠とともに説明している。	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。	・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・それぞれの連に描かれている情景を読み取り、説明している。	・それぞれの連に描かれている情景を読み取っている。	・それぞれの連に描かれている情景を読み取っていない。
	⑤内容の解釈 読(1) イ	・描かれている情景から作者の心情を考え、説明している。 ・否定的な表現に込められた作者の思いを考え、根拠とともに説明している。	・描かれている情景から作者の心情を考えている。 ・否定的な表現に込められた作者の思いを考えている。	・描かれている情景から作者の心情を考えていない。 ・否定的な表現に込められた作者の思いを考えていない。
主体的に学習に取り組む態度	⑥解釈の提示	・作品に表現されている作者の心情について考えをまとめることを通して、作品への理解を深めようとしている。	・作品に表現されている作者の心情について、考えをまとめようとしている。	・作品に表現されている作者の心情について、考えをまとめようとしていない。

■「金剛の露—俳句抄」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	- それぞれの句の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。 - それぞれの句に使われている季語について理解し、それ以外の季語についても理解している。	- それぞれの句の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 - それぞれの句に使われている季語について理解している。	- それぞれの句の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。 - それぞれの句に使われている季語について理解していない。
	②俳句の理解 (2) ア	俳句独自の表現の特徴と表現効果を理解し、根拠とともに説明している。	俳句独自の表現の特徴と表現効果を理解している。	俳句独自の表現の特徴と表現効果を理解していない。
	③鑑賞の意義 (2) イ	俳句の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解し、根拠をもって説明している。	俳句の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。	俳句の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	それぞれの句が、どのような情景や心情を表現しているか読み取り、説明している。	それぞれの句が、どのような情景や心情を表現しているか、読み取っている。	それぞれの句が、どのような情景や心情を表現しているか、読み取っていない。
	⑤比較・考察 読(1) ウ	- それぞれの句の表現の特徴や技法を比較しながら理解し、説明している。 - 最も印象に残った句について、どのような点にひかれたかを、根拠をもって文章にまとめている。 - 他者の印象に残った句について書かれた文章から、俳句の表現や解釈について理解を深め、考察したことを説明している。	- それぞれの句の表現の特徴や技法を比較しながら理解している。 - 最も印象に残った句について、どのような点にひかれたかを文章にまとめている。 - 他者の印象に残った句について書かれた文章から、俳句の表現や解釈について理解を深めている。	- それぞれの句の表現の特徴や技法を比較しながら理解していない。 - 最も印象に残った句について、どのような点にひかれたかを文章にまとめていない。 - 他者の印象に残った句について書かれた文章から、俳句の表現や解釈について理解を深めていない。

主体的に 学習に取り 組む態度	⑥解釈の提示	最も印象に残った句について、どのような点にひかれたかを文章にまとめることを通して、句の表現や解釈について理解を深めようとしている。	最も印象に残った句について、どのような点にひかれたかを文章にまとめようとしている。	最も印象に残った句について、どのような点にひかれたかを文章にまとめようとしていない。
-----------------------	--------	---	---	--

■「平気—正岡子規」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②解釈の特徴 (2) ア	・俳句の解釈から人物像の捉え方に違いが生まれることを理解し、根拠とともに説明している。	・俳句の解釈から人物像の捉え方に違いが生まれることを理解している。	・俳句の解釈から人物像の捉え方に違いが生まれることを理解していない。
思考・判断・表現	③内容把握 読(1) ア	・高浜虚子選の『子規句集』と大岡信選の『子規の俳句』から浮かび上がる正岡子規像の違いを読み取り、根拠とともに説明している。 ・正岡子規の「平気」とはどのような心の在り方か読み取り、根拠とともに説明している。 ・絶筆三句から正岡子規の生き方を読み取り、根拠とともに説明している。 ・筆者が正岡子規をどのように捉えているか読み取り、根拠とともに説明している。	・高浜虚子選の『子規句集』と大岡信選の『子規の俳句』から浮かび上がる正岡子規像の違いを読み取っている。 ・正岡子規の「平気」とはどのような心の在り方か読み取っている。 ・絶筆三句から正岡子規の生き方を読み取っている。 ・筆者が正岡子規をどのように捉えているか読み取っている。	・高浜虚子選の『子規句集』と大岡信選の『子規の俳句』から浮かび上がる正岡子規像の違いを読み取っていない。 ・正岡子規の「平気」とはどのような心の在り方か読み取っていない。 ・絶筆三句から正岡子規の生き方を読み取っていない。 ・筆者が正岡子規をどのように捉えているか読み取っていない。
	④考えの形成 読(1) カ	・正岡子規を「滑稽家」とであるとする筆者の主張から、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、根拠をもって説明している。	・正岡子規を「滑稽家」とであるとする筆者の主張から、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	・正岡子規を「滑稽家」とであるとする筆者の主張から、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めていない。
主体的に学習に取り組む態度	⑤意見の提示	・正岡子規を「滑稽家」とであるとする筆者の主張について、自分の考えをまとめ、説明しようとしている。	・正岡子規を「滑稽家」とであるとする筆者の主張について、自分の考えをまとめようとしている。	・正岡子規を「滑稽家」とであるとする筆者の主張について、自分の考えをまとめようとしていない。

■「【言語活動】アンソロジーを作る」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き (1) ア	・ 作品について必要な言葉を理解し、正しく選択して書いており、使用している以外の言葉や使われ方についても理解している。	・ 作品について必要な言葉を理解し、正しく選択して書いている。	・ 作品について必要な言葉を理解せず、正しく選択して書いていない。
	②アンソロジーの理解 (1) ウ	・ 文学作品をアンソロジーにすることで、多面的な理解が深まることを理解し、根拠とともに説明している。	・ 文学作品をアンソロジーにすることで、多面的な理解が深まることを理解している。	・ 文学作品をアンソロジーにすることで、多面的な理解が深まることを理解していない。
	③表現の理解 (1) エ	・ アンソロジー作成の手順を理解し、作品の内容をより深めるための工夫をして作成し、テーマや作成の際に意識した点について説明している。	・ アンソロジー作成の手順を理解し、作品の内容をより深めるための工夫をして作成している。	・ アンソロジー作成の手順を理解し、作品の内容をより深めるための工夫をして作成していない。
思考・判断・表現	④比較・考察 読(1) ウ	・ 複数の作品を吟味・検討し、作品への理解を深めながら、テーマにふさわしい作品を、根拠をもって選択している。 ・ 他者のアンソロジーを読み、テーマと作品選択の関連や並べ方などの工夫に気づき、根拠とともに説明している。	・ 複数の作品を吟味・検討し、テーマにふさわしい作品を選択している。 ・ 他者のアンソロジーを読み、テーマと作品選択の関連や並べ方などの工夫に気づいている。	・ 複数の作品を吟味・検討せず、テーマにふさわしい作品を選択していない。 ・ 他者のアンソロジーを読み、テーマと作品選択の関連や並べ方などの工夫に気づいていない。
	⑤考えの比較 読(1) キ	・ アンソロジーの作成を通して、テーマやそれぞれの作品についての自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、説明している。 ・ 他者のアンソロジーを読み、テーマやそれぞれの作品についての自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、説明している。	・ アンソロジーの作成を通して、テーマやそれぞれの作品についての自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・ 他者のアンソロジーを読み、テーマやそれぞれの作品についての自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	・ アンソロジーの作成を通して、テーマやそれぞれの作品についての自分のものの見方、感じ方、考え方を深めていない。 ・ 他者のアンソロジーを読み、テーマやそれぞれの作品についての自分のものの見方、感じ方、考え方を深めていない。

主体的に 学習に取り 組む態度	⑥創作	作品を吟味し、味わいを深める工夫をしてアンソロジーを作成し、批評し合うことを通して、テーマや作品への理解を深めようとしている。	作品を吟味し、アンソロジーを作成し、批評し合おうとしている。	作品を吟味し、アンソロジーを作成し、批評し合おうとしていない。
-----------------------	-----	---	--	---

■「空っぽの瓶」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②日本語の特質 (2) ア	・人称を巡る筆者の体験や考えから、日本語の特質を理解し、その内容を説明している。	・人称を巡る筆者の体験や考えから、日本語の特質を理解している。	・人称を巡る筆者の体験や考えから、日本語の特質を理解していない。
	③読書の意義 (2) イ	・筆者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解し、根拠とともに説明している。	・筆者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。	・筆者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・筆者が、子供の頃に日本語の一人称を使わないようにしていた理由を読み取り、根拠とともに説明している。 ・「ぼく」と「おれ」についての筆者の考えを読み取り、根拠とともに説明している。 ・筆者が「わたしは筆先であり、ボトルは空っぽなのだ。」と感じる理由を読み取り、根拠とともに説明している。	・筆者が、子供の頃に日本語の一人称を使わないようにしていた理由を読み取っている。 ・「ぼく」と「おれ」についての筆者の考えを読み取っている。 ・筆者が「わたしは筆先であり、ボトルは空っぽなのだ。」と感じる理由を読み取っている。	・筆者が、子供の頃に日本語の一人称を使わないようにしていた理由を読み取っていない。 ・「ぼく」と「おれ」についての筆者の考えを読み取っていない。 ・筆者が「わたしは筆先であり、ボトルは空っぽなのだ。」と感じる理由を読み取っていない。
	⑤考えの形成 読(1) カ	・人称についての筆者の体験や考えを理解することを通して、言葉と存在の関わりについての自分のものの見方や感じ方、考え方を深め、根拠をもって説明している。	・人称についての筆者の体験や考えを理解することを通して、言葉と存在の関わりについての自分のものの見方や感じ方、考え方を深めている。	・人称についての筆者の体験や考えを理解することを通して、言葉と存在の関わりについての自分のものの見方や感じ方、考え方を深めていない。

主体的に 学習に取り組む 態度	⑥意見の提示	・ 人称についての筆者の体験や考えを理解することを通して、言葉と存在の関わりについて自分の考えをまとめ、その内容を説明しようとしている。	・ 人称についての筆者の体験や考えを理解することを通して、言葉と存在の関わりについて自分の考えをまとめようとしている。	・ 人称についての筆者の体験や考えを理解することを通して、言葉と存在の関わりについて自分の考えをまとめようとしていない。
-----------------------	--------	--	---	--

■「クレールという女」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②時代の特徴 (2) ア	・筆者の読書体験から、作品を読んだ時代の特徴と受け止め方の関連を理解し、その内容を説明している。	・筆者の読書体験から、作品を読んだ時代の特徴と受け止め方の関連を理解している。	・筆者の読書体験から、作品を読んだ時代の特徴と受け止め方の関連を理解していない。
思考・判断・表現	③内容把握 読(1) ア	・現在から過去へと移行する、描写の工夫を理解し、説明している。 ・『人間のしるし』の登場人物のそれぞれの生き方・考え方とその変化を読み取り、根拠とともに説明している。 ・四十年前の筆者と友人たちが、『人間のしるし』を通して、自分たちの生き方をどのように考えていたか読み取り、根拠とともに説明している。 ・四十年たって、筆者が『人間のしるし』から何を感じているか読み取り、根拠とともに説明している。	・現在から過去へと移行する、描写の工夫を理解している。 ・『人間のしるし』の登場人物のそれぞれの生き方・考え方とその変化を読み取っている。 ・四十年前の筆者と友人たちが、『人間のしるし』を通して、自分たちの生き方をどのように考えていたか読み取っている。 ・四十年たって、筆者が『人間のしるし』から何を感じているか読み取っている。	・現在から過去へと移行する、描写の工夫を理解していない。 ・『人間のしるし』の登場人物のそれぞれの生き方・考え方とその変化を読み取っていない。 ・四十年前の筆者と友人たちが、『人間のしるし』を通して、自分たちの生き方をどのように考えていたか読み取っていない。 ・四十年たって、筆者が『人間のしるし』から何を感じているか読み取っていない。
	④考えの形成 読(1) カ	・筆者の読書体験を踏まえて、人間の生き方についての自分のものの見方や感じ方、考え方を深め、根拠をもって説明している。	・筆者の読書体験を踏まえて、人間の生き方についての自分のものの見方や感じ方、考え方を深めている。	・筆者の読書体験を踏まえて、人間の生き方についての自分のものの見方や感じ方、考え方を深めていない。

		・本文を読み、時間の経過によって受け止め方や感じ方が変わることにについて、考えを深め、その内容を説明している。	・本文を読み、時間の経過によって受け止め方や感じ方が変わることにについて、考えを深めている。	・本文を読み、時間の経過によって受け止め方や感じ方が変わることにについて、考えを深めていない。
主体的に学習に取り組む態度	⑤意見の提示	・筆者の読書体験を踏まえて、人間の生き方について、自分の考えをまとめ、説明しようとしている。	・筆者の読書体験を踏まえて、人間の生き方について、自分の考えをまとめようとしている。	・筆者の読書体験を踏まえて、人間の生き方について、自分の考えをまとめようとしていない。

■「父と暮せば」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・戯曲の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・戯曲の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・戯曲の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②戯曲の特質 (2) ア	・戯曲の特質を理解し、根拠とともに説明している。	・戯曲の特質を理解している。	・戯曲の特質を理解していない。
	③読書の意義 (2) イ	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解し、根拠とともに説明している。	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・各場で語られていることから、美津江に起こったことと心情を読み取り、根拠とともに説明している。 ・美津江の経験を、時系列で整理し、その内容を説明している。 ・美津江が、木下さんを好きになってはいけなかった理由を読み取り、考察している。	・各場で語られていることから、美津江に起こったことと心情を読み取っている。 ・美津江の経験を、時系列で整理している。 ・美津江が、木下さんを好きになってはいけなかった理由を読み取っている。	・各場で語られていることから、美津江に起こったことと心情を読み取っていない。 ・美津江の経験を、時系列で整理していない。 ・美津江が、木下さんを好きになってはいけなかった理由を読み取っていない。
	⑤考えの形成 読(1) カ	・登場人物の経験や心情を理解し、「平和」や「生きること」について自分の考えを深め、根拠をもって説明している。	・登場人物の経験や心情を理解し、「平和」や「生きること」について自分の考えを深めている。	・登場人物の経験や心情を理解し、「平和」や「生きること」について自分の考えを深めていない。
主体的に学習に取り組む態度	⑥考察・作文	・この戯曲を読んで、「平和」や「生きること」について感じたことや考えたことを文章にまとめ、説明しようとしている。	・この戯曲を読んで、「平和」や「生きること」について感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。	・この戯曲を読んで、「平和」や「生きること」について感じたことや考えたことを文章にまとめようとしていない。

■「【言語活動】小説を脚本に書き換える」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き (1) ア	・小説を脚本に書き換える際に必要な言葉を理解し、正しく選択して書き、使用している以外の言葉や使われ方についても理解している。	・小説を脚本に書き換える際に必要な言葉を理解し、正しく選択して書いている。	・小説を脚本に書き換える際に必要な言葉を理解せず、正しく選択して書いていない。
	②小説と脚本の特徴 (1) ウ	・書き換えを通して、小説と脚本の違いを理解し、それぞれの特徴について、根拠とともに説明している。	・書き換えを通して、小説と脚本の違いを理解している。	・書き換えを通して、小説と脚本の違いを理解していない。
	③表現の技法 (1) エ	・せりふやト書など脚本の表現の特徴を理解し、必要な情報や表現を補いながら書き換えている。	・せりふやト書など脚本の表現の特徴を理解し、書き換えている。	・せりふやト書など脚本の表現の特徴を理解せず、書き換えていない。
思考・判断・表現	④内容の解釈 読(1) イ	・脚本への書き換えを通して、原作の小説における語り手の視点や場面設定の仕方、人物像を解釈し、それを説明している。	・脚本への書き換えを通して、原作の小説における語り手の視点や場面設定の仕方、人物像を解釈している。	・脚本への書き換えを通して、原作の小説における語り手の視点や場面設定の仕方、人物像を解釈していない。
	⑤比較・考察 読(1) ウ	・脚本への書き換えを通して、原作の小説における文体の特徴や効果を考え、その内容を説明している。 ・脚本への書き換えを通して、原作と脚本を読み比べ、小説と脚本それぞれの表現の特徴や効果を考え、その内容を説明している。 ・他者の脚本について、原作と脚本を読み比べ、小説と脚本それぞれの表現の特徴や効果を考え、その内容を説明している。	・脚本への書き換えを通して、原作の小説における文体の特徴や効果を考えている。 ・脚本への書き換えを通して、原作と脚本を読み比べ、小説と脚本それぞれの表現の特徴や効果を考えている。 ・他者の脚本について、原作と脚本を読み比べ、小説と脚本それぞれの表現の特徴や効果を考えている。	・脚本への書き換えを通して、原作の小説における文体の特徴や効果を考えていない。 ・脚本への書き換えを通して、原作と脚本を読み比べ、小説と脚本それぞれの表現の特徴や効果を考えていない。 ・他者の脚本について、原作と脚本を読み比べ、小説と脚本それぞれの表現の特徴や効果を考えていない。

主体的に 学習に取り 組む態度	⑥書き換え・話し 合い	・小説の一場面を脚本に書き換えることを通して、小説と脚本を比較し、それぞれの特徴についてまとめ、話し合いから両者の違いに対し、理解を深めようとしている。	・小説の一場面を脚本に書き換えることを通して、小説と脚本を比較し、それぞれの特徴についてまとめ、話し合おうとしている。	・小説の一場面を脚本に書き換えることを通して、小説と脚本を比較し、それぞれの特徴についてまとめ、話し合おうとしていない。
-----------------------	----------------	--	---	--

■「舞姫」ループリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②時代の特質 (2) ア	・作品の時代背景や当時の作者の状況を理解し、その内容を説明している。 ・文語体で書かれた作品の特徴を理解し、その内容を説明している。	・作品の時代背景や当時の作者の状況を理解している。 ・文語体で書かれた作品の特徴を理解している。	・作品の時代背景や当時の作者の状況を理解していない。 ・文語体で書かれた作品の特徴を理解していない。
	③読書の意義 (2) イ	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解し、根拠をもって説明している。	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・回想記形式であることを踏まえ、本文全体の大まかな場面展開を捉え、説明している。 ・第一段が全体の序の役割を果たしていることを理解したうえで、豊太郎が現在の自分についてどのように分析しているか読み取り、根拠とともに説明している。 ・豊太郎の育った教育環境を踏まえ、留学までの学問に対する基本姿勢を読み取り、根拠とともに説明している。 ・回想部分のそれぞれの内容と登場人物の心情を読み取り、根拠とともに説明している。	・回想記形式であることを踏まえ、本文全体の大まかな場面展開を捉えている。 ・第一段が全体の序の役割を果たしていることを理解したうえで、豊太郎が現在の自分についてどのように分析しているか読み取っている。 ・豊太郎の育った教育環境を踏まえ、留学までの学問に対する基本姿勢を読み取っている。 ・回想部分のそれぞれの内容と登場人物の心情を読み取っている。	・回想記形式であることを踏まえ、本文全体の大まかな場面展開を捉えていない。 ・第一段が全体の序の役割を果たしていることを理解したうえで、豊太郎が現在の自分についてどのように分析しているか読み取っていない。 ・豊太郎の育った教育環境を踏まえ、留学までの学問に対する基本姿勢を読み取っていない。 ・回想部分のそれぞれの内容と登場人物の心情を読み取っていない。

	・留学後の豊太郎の変化が大学に通うことによって生じたことを読み取り、根拠とともに説明している。 ・エリスと出会ったときの状況やそのときの豊太郎の行動と心情を読み取り、根拠とともに説明している。 ・豊太郎がベルリンに留まった経緯と心情の揺れについて読み取り、根拠とともに説明している。 ・天方伯との会合の経緯や内容を読み取り、根拠とともに説明している。 ・相沢の忠言の内容とそれに対する豊太郎の心情を読み取り、根拠とともに説明している。 ・ロシアでの豊太郎の活躍ぶりを読み取り、根拠とともに説明している。 ・エリスからの手紙の内容と、それを読んだ豊太郎の心情の変化を読み取り、根拠とともに説明している。 ・ロシアから帰国した豊太郎を迎えるエリスの喜びと、そのときの豊太郎の心情について読み取り、根拠とともに説明している。 ・天方伯の帰国の誘いを承諾した後の豊太郎の心情を読み取り、根拠とともに説明している。 ・ホテルを出た豊太郎の錯乱した様子を読み取り、根拠とともに説明している。 ・豊太郎が意識を失っていた間に起こった出来事を読み取り、根拠とともに説明している。	・留学後の豊太郎の変化が大学に通うことによって生じたことを読み取っている。 ・エリスと出会ったときの状況やそのときの豊太郎の行動と心情を読み取っている。 ・豊太郎がベルリンに留まった経緯と心情の揺れについて読み取っている。 ・天方伯との会合の経緯や内容を読み取っている。 ・相沢の忠言の内容とそれに対する豊太郎の心情を読み取っている。 ・ロシアでの豊太郎の活躍ぶりを読み取っている。 ・エリスからの手紙の内容と、それを読んだ豊太郎の心情の変化を読み取っている。 ・ロシアから帰国した豊太郎を迎えるエリスの喜びと、そのときの豊太郎の心情について読み取っている。 ・天方伯の帰国の誘いを承諾した後の豊太郎の心情を読み取っている。 ・ホテルを出た豊太郎の錯乱した様子を読み取っている。 ・豊太郎が意識を失っていた間に起こった出来事を読み取っている。	・留学後の豊太郎の変化が大学に通うことによって生じたことを読み取っていない。 ・エリスと出会ったときの状況やそのときの豊太郎の行動と心情を読み取っていない。 ・豊太郎がベルリンに留まった経緯と心情の揺れについて読み取っていない。 ・天方伯との会合の経緯や内容を読み取っていない。 ・相沢の忠言の内容とそれに対する豊太郎の心情を読み取っていない。 ・ロシアでの豊太郎の活躍ぶりを読み取っていない。 ・エリスからの手紙の内容と、それを読んだ豊太郎の心情の変化を読み取っていない。 ・ロシアから帰国した豊太郎を迎えるエリスの喜びと、そのときの豊太郎の心情について読み取っていない。 ・天方伯の帰国の誘いを承諾した後の豊太郎の心情を読み取っていない。 ・ホテルを出た豊太郎の錯乱した様子を読み取っていない。 ・豊太郎が意識を失っていた間に起こった出来事を読み取っていない。
--	---	---	--

		・豊太郎、相沢それぞれの人物像について読み取り、根拠とともに説明している。 ・国費留学生というエリートであり、豊太郎自身も立身出世を望んでいたことを読み取り、根拠とともに説明している。	・豊太郎、相沢それぞれの人物像について読み取っている。 ・国費留学生というエリートであり、豊太郎自身も立身出世を望んでいたことを読み取っている。	・豊太郎、相沢それぞれの人物像について読み取っていない。 ・国費留学生というエリートであり、豊太郎自身も立身出世を望んでいたことを読み取っていない。
	⑤考えの形成 読（１）力	・豊太郎の葛藤を読み取り、時代背景も踏まえたうえで小説の内容を解釈し、人生の選択について考えを深め、説明している。	・豊太郎の葛藤を読み取り、時代背景も踏まえたうえで小説の内容を解釈し、人生の選択について考えを深めている。	・豊太郎の葛藤を読み取り、時代背景も踏まえたうえで小説の内容を解釈しているが、人生の選択について考えを深めていない。
主体的に学習に取り組む態度	⑥意見の提示・話し合い	・明治という時代背景を踏まえ、豊太郎の考えや行動について自分の考えをまとめ、話し合いを通して、人生の選択について考えを深めようとしている。	・明治という時代背景を踏まえ、豊太郎の考えや行動について自分の考えをまとめ、話し合おうとしている。	・明治という時代背景を踏まえ、豊太郎の考えや行動について自分の考えをまとめ、話し合おうとしていない。

■「演技する『私』」ループリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②小説の特質 (2) ア	・筆者の主張から、小説における作者と小説内の「私」についての関係について理解し、その内容を説明している。	・筆者の主張から、小説における作者と小説内の「私」についての関係について理解している。	・筆者の主張から、小説における作者と小説内の「私」についての関係について理解していない。
思考・判断・表現	③内容把握 読(1) ア	・筆者が、どのような「発想」からどのような「発想」へ「転換」することを述べているか読み取り、根拠とともに説明している。 ・筆者が太宰治「恥」から読み取った事柄を読み取り、根拠とともに説明している。 ・「ダブルバインド（二重拘束状況）を仕かけていく」ことによって、作者は読者にどのようなことを行うのか読み取り、根拠とともに説明している。 ・「小説がまさに『小説』であるとはどのようなことか、筆者の考えを読み取り、根拠とともに説明している。	・筆者が、どのような「発想」からどのような「発想」へ「転換」することを述べているか読み取っている。 ・筆者が太宰治「恥」から読み取った事柄を読み取っている。 ・「ダブルバインド（二重拘束状況）を仕かけていく」ことによって、作者は読者にどのようなことを行うのか読み取っている。 ・「小説がまさに『小説』であるとはどのようなことか、筆者の考えを読み取っている。	・筆者が、どのような「発想」からどのような「発想」へ「転換」することを述べているか読み取っていない。 ・筆者が太宰治「恥」から読み取った事柄を読み取っていない。 ・「ダブルバインド（二重拘束状況）を仕かけていく」ことによって、作者は読者にどのようなことを行うのか読み取っていない。 ・「小説がまさに『小説』であるとはどのようなことか、筆者の考えを読み取っていない。
	④考えの形成 読(1) カ	・「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説の、「私」と「作者その人」の関係を考え、作者の意図を捉え、その内容を説明している。	・「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説の、「私」と「作者その人」の関係を考え、作者の意図を捉えている。	・「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説の、「私」と「作者その人」の関係を考え、作者の意図を捉えていない。

主体的に 学習に取り 組む態度	⑤考察	・ これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説の、「私」と「作者その人」の関係について改めて考え、文章にまとめ、小説表現への理解を深めようとしている。	・ これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説の、「私」と「作者その人」の関係について改めて考え、文章にまとめようとしている。	・ これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説の、「私」と「作者その人」の関係について改めて考え、文章にまとめようとしていない。
-----------------------	-----	---	---	--

■「文学の未来」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②文学の特質 (2) ア	・文学作品を読む意義についての筆者の主張を通して、文学の特質を理解し、その内容を説明している。	・文学作品を読む意義についての筆者の主張を通して、文学の特質を理解している。	・文学作品を読む意義についての筆者の主張を通して、文学の特質を理解していない。
思考・判断・表現	③内容把握 読(1) ア	・四つの意味段落のそれぞれで述べられている筆者の考えを読み取り、根拠とともに説明している。 ・現在の読者が文学作品を読むことの固有の意義について筆者の考えを読み取り、根拠とともに説明している。 ・文学作品とテキスト、読者の関係についての筆者の考えを読み取り、根拠とともに説明している。 ・文学作品と読者の豊かな関係についての筆者の考えを読み取り、根拠とともに説明している。 ・文学作品に接する中で読者が発見するものについての筆者の考えを読み取り、根拠とともに説明している。	・四つの意味段落のそれぞれで述べられている筆者の考えを読み取っている。 ・現在の読者が文学作品を読むことの固有の意義について筆者の考えを読み取っている。 ・文学作品とテキスト、読者の関係についての筆者の考えを読み取っている。 ・文学作品と読者の豊かな関係についての筆者の考えを読み取っている。 ・文学作品に接する中で読者が発見するものについての筆者の考えを読み取っている。	・四つの意味段落のそれぞれで述べられている筆者の考えを読み取っていない。 ・現在の読者が文学作品を読むことの固有の意義について筆者の考えを読み取っていない。 ・文学作品とテキスト、読者の関係についての筆者の考えを読み取っていない。 ・文学作品と読者の豊かな関係についての筆者の考えを読み取っていない。 ・文学作品に接する中で読者が発見するものについての筆者の考えを読み取っていない。
	④考えの形成 読(1) カ	・筆者が主張する文学作品を読む意義について考えを深め、その内容を説明している。	・筆者が主張する文学作品を読む意義について考えを深めている。	・筆者が主張する文学作品を読む意義について考えを深めていない。

主体的に 学習に取り組む 態度	⑤考察	・筆者の考える文学の意義を理解し、文学作品を読むことと、読者の関係について考えを深め、説明しようとしている。	・筆者の考える文学の意義を理解し、文学作品を読むことと、読者の関係について考えを深めようとしている。	・筆者の考える文学の意義を理解せず、文学作品を読むことと、読者の関係について考えを深めようとしていない。
-----------------------	-----	--	--	--

■「映画の可能性のために」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②小説の特質 (2) ア	・映画と小説についての筆者の考えから、作品を成立させる視点のありようについて理解し、その内容を説明している。	・映画と小説についての筆者の考えから、作品を成立させる視点のありようについて理解している。	・映画と小説についての筆者の考えから、作品を成立させる視点のありようについて理解していない。
	③読書の意義 (2) イ	・映画とシナリオについての筆者のものの見方や感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分の考えを深める読書の意義を理解し、根拠とともに説明している。	・映画とシナリオについての筆者のものの見方や感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分の考えを深める読書の意義を理解している。	・映画とシナリオについての筆者のものの見方や感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分の考えを深める読書の意義を理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・筆者が「ダイアログを書くことに違和感を覚えた」理由を読み取り、根拠とともに説明している。 ・「作家には二つの種類がある」について、それぞれどのような作家か読み取り、根拠とともに説明している。 ・なぜ「切り返し（構図、逆構図）は禁じられる」のかを読み取り、根拠とともに説明している。 ・筆者の述べる「私の無意識の選択」とはどのようなものか読み取り、根拠とともに説明している。	・筆者が「ダイアログを書くことに違和感を覚えた」理由を読み取っている。 ・「作家には二つの種類がある」について、それぞれどのような作家か読み取っている。 ・なぜ「切り返し（構図、逆構図）は禁じられる」のかを読み取っている。 ・筆者の述べる「私の無意識の選択」とはどのようなものか読み取っている。	・筆者が「ダイアログを書くことに違和感を覚えた」理由を読み取っていない。 ・「作家には二つの種類がある」について、それぞれどのような作家か読み取っていない。 ・なぜ「切り返し（構図、逆構図）は禁じられる」のかを読み取っていない。 ・筆者の述べる「私の無意識の選択」とはどのようなものか読み取っていない。

		・筆者の述べる「一つのコンセプト」とはどのようなものか読み取り、根拠とともに説明している。	・筆者の述べる「一つのコンセプト」とはどのようなものか読み取っている。	・筆者の述べる「一つのコンセプト」とはどのようなものか読み取っていない。
	⑤考えの形成 読（１）力	・筆者が取り上げた二つの作家の視点の違いについて理解し、整理して、根拠とともに説明している。	・筆者が取り上げた二つの作家の視点の違いについて理解し、整理している。	・筆者が取り上げた二つの作家の視点の違いについて理解していないか、理解していても整理していない。
主体的に学習に取り組む態度	⑥考察・話し合い	・筆者の主張を踏まえて、選んだ作品がどちらの視点であるか、考えをまとめ、話し合い、違いについて理解を深めようとしている。	・筆者の主張を踏まえて、選んだ作品がどちらの視点であるか、考えをまとめ、話し合おうとしている。	・筆者の主張を踏まえて、選んだ作品がどちらの視点であるか、考えをまとめ、話し合おうとしていない。

■「【言語活動】映画と原作を比較する」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き (1) ア	・映画のせりふは原作と異なることがあり、表現に違いがあることを理解し、比較している。	・映画のせりふは原作と異なることがあり、表現に違いがあることを理解している。	・映画のせりふは原作と異なることがあり、表現に違いがあることを理解していない。
	②批評の理解 (1) ウ	・映画と原作を比較し批評することを通して、映画と原作それぞれの表現形式の特質や作品自体の捉え方が、多面的に深まることを理解し、根拠とともに説明している。	・映画と原作を比較し批評することを通して、映画と原作それぞれの表現形式の特質や作品自体の捉え方が、多面的に深まることを理解している。	・映画と原作を比較し批評することを通して、映画と原作それぞれの表現形式の特質や作品自体の捉え方が、多面的に深まることを理解していない。
	③表現の技法 (1) エ	・映画と原作それぞれの表現の違いを理解し、分析して、根拠とともに批評文にまとめている。	・映画と原作それぞれの表現の違いを理解し、分析して、批評文にまとめている。	・映画と原作それぞれの表現の違いを理解し、分析して、批評文にまとめていない。
思考・判断・表現	④比較・考察 読(1) ウ	・映画と原作を比較、分析し、改変による表現効果を考えながら、それぞれの作品や表現形式についての理解を深め、その内容を説明している。 ・他者の批評文を読み、改変による表現効果から、それぞれの作品や表現形式についての理解を深め、その内容を説明している。	・映画と原作を比較、分析し、改変による表現効果を考えながら、それぞれの作品や表現形式についての理解を深めている。 ・他者の批評文を読み、改変による表現効果から、それぞれの作品や表現形式についての理解を深めている。	・映画と原作を比較、分析し、改変による表現効果を考えながら、それぞれの作品や表現形式についての理解を深めていない。 ・他者の批評文を読み、改変による表現効果から、それぞれの作品や表現形式についての理解を深めていない。
	⑤作品の解釈 読(1) オ	・映画と原作を比較、分析し、批評文を書くことで、作品や形式についての解釈を深め、その内容を説明している。 ・他者の批評文を読み、改変することにより、作品や形式についての解釈を広げ、その内容を説明している。	・映画と原作を比較、分析し、批評文を書くことで、作品や形式についての解釈を深めている。 ・他者の批評文を読み、改変することにより、作品や形式についての解釈を広げている。	・映画と原作を比較、分析し、批評文を書くことで、作品や形式についての解釈を深めていない。 ・他者の批評文を読み、改変することにより、作品や形式についての解釈を広げていない。

主体的に 学習に取り組む 態度	⑥批評文	・映画と原作を比較、分析することを通して、それぞれの表現形式を理解して批評文を書き、表現の違いへの理解を深めようとしている。	・映画と原作を比較、分析することを通して、それぞれの表現形式を理解し、批評文を書こうとしている。	・映画と原作を比較、分析することを通して、それぞれの表現形式を理解し、批評文を書こうとしていない。
-----------------------	------	--	--	---

■「葉桜と魔笛」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②文学作品の知識 (2) ア	・作者や作者のほかの作品、作品の時代背景を理解し、その内容を説明している。	・作者や作者のほかの作品、作品の時代背景を理解している。	・作者や作者のほかの作品、作品の時代背景を理解していない。
思考・判断・表現	③内容把握 読(1) ア	・本文を話の展開に沿って場面分けし、それぞれの内容を要約し、説明している。 ・語り手である老夫人に関わる主要な出来事を、「私」の年齢を軸として年代順に整理し、説明している。 ・回想される出来事があった頃の「私」の心情を読み取り、根拠とともに説明している。 ・「私」がM・Tからの手紙を読み、妹に手紙を書くまでの心の動きを読み取り、根拠とともに説明している。 ・妹がなぜM・Tの名で自分に宛てて手紙を書いたのか読み取り、根拠とともに説明している。	・本文を話の展開に沿って場面分けし、それぞれの内容を要約している。 ・語り手である老夫人に関わる主要な出来事を、「私」の年齢を軸として年代順に整理している。 ・回想される出来事があった頃の「私」の心情を読み取っている。 ・「私」がM・Tからの手紙を読み、妹に手紙を書くまでの心の動きを読み取っている。 ・妹がなぜM・Tの名で自分に宛てて手紙を書いたのか読み取っている。	・本文を話の展開に沿って場面分けし、それぞれの内容を要約していない。 ・語り手である老夫人に関わる主要な出来事を、「私」の年齢を軸として年代順に整理していない。 ・回想される出来事があった頃の「私」の心情を読み取っていない。 ・「私」がM・Tからの手紙を読み、妹に手紙を書くまでの心の動きを読み取っていない。 ・妹がなぜM・Tの名で自分に宛てて手紙を書いたのか読み取っていない。
	④解釈の多様性 読(1) エ	・「葉桜と魔笛」という題名について、感じたことをまとめ、説明している。 ・この小説において、時間の流れはどのような役割を果たしているか考えをまとめ、根拠をもって説明している。	・「葉桜と魔笛」という題名について、感じたことをまとめている。 ・この小説において、時間の流れはどのような役割を果たしているか考えをまとめている。	・「葉桜と魔笛」という題名について、感じたことをまとめている。 ・この小説において、時間の流れはどのような役割を果たしているか考えをまとめている。

		・ 友達の考えを聞いて、解釈の違いに気づき、その内容を説明している。	・ 友達の考えを聞いて、解釈の違いに気づいている。	・ 友達の考えを聞いて、解釈の違いに気づいていない。
主体的に 学習に取り組む 態度	⑤考察・話し合い	・ この小説において、時間の流れはどのような役割を果たしているか、考えをまとめ、話し合いを通して、理解を深めようとしている。	・ この小説において、時間の流れはどのような役割を果たしているか、考えをまとめ、話し合おうとしている。	・ この小説において、時間の流れはどのような役割を果たしているか、考えをまとめ、話し合おうとしていない。

■「蠅」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き・語彙 (1) アイ	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解していない。
	②文学作品の知識 (2) ア	・作者や作者のほかの作品、作品の時代背景を理解し、その内容を説明している。	・作者や作者のほかの作品、作品の時代背景を理解している。	・作者や作者のほかの作品、作品の時代背景を理解していない。
	③読書の意義 (2) イ	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、ものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解し、根拠をもって説明している。	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、ものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、ものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解していない。
思考・判断・表現	④内容把握 読(1) ア	・本文の概略を理解し、説明している。 ・「馭者」「農婦」「若者と娘」「母親と男の子」「田舎紳士」の、それぞれの境遇や気持ちを読み取り、根拠とともに説明している。 ・「一」における「蠅」の動きをまとめ、場面を読み取り、説明している。 ・「三」での「農婦」との会話で、「馭者」の心情を読み取り、説明している。 ・「四」での「若者」と「娘」のそれぞれの心情を読み取り、説明している。 ・「七」において、「宿場に集まった人々」の様子から、それぞれの心情を読み取り、説明している。	・本文の概略を理解している。 ・「馭者」「農婦」「若者と娘」「母親と男の子」「田舎紳士」の、それぞれの境遇や気持ちを読み取っている。 ・「一」における「蠅」の動きをまとめ、場面を読み取っている。 ・「三」での「農婦」との会話で、「馭者」の心情を読み取っている。 ・「四」での「若者」と「娘」のそれぞれの心情を読み取っている。 ・「七」において、「宿場に集まった人々」の様子から、それぞれの心情を読み取っている。	・本文の概略を理解していない。 ・「馭者」「農婦」「若者と娘」「母親と男の子」「田舎紳士」の、それぞれの境遇や気持ちを読み取っていない。 ・「一」における「蠅」の動きをまとめ、場面を読み取っていない。 ・「三」での「農婦」との会話で、「馭者」の心情を読み取っていない。 ・「四」での「若者」と「娘」のそれぞれの心情を読み取っていない。 ・「七」において、「宿場に集まった人々」の様子から、それぞれの心情を読み取っていない。

	⑤解釈の多様性 読（１）エ	・「八」の文章から状況を読み取り、表現されていることを考察し、説明している。 ・本文における「饅頭」が果たしている役割を理解し、根拠とともに説明している。 ・馬車が転落し、「蠅」だけが飛び去る結末から読み取れることをまとめ、説明している。 ・他者の考えを聞いて、解釈の違いに気づき、その内容を説明している。	・「八」の文章から状況を読み取り、表現されていることを考察している。 ・本文における「饅頭」が果たしている役割を理解している。 ・馬車が転落し、「蠅」だけが飛び去る結末から読み取れることをまとめている。 ・他者の考えを聞いて、解釈の違いに気づいている。	・「八」の文章から状況を読み取り、表現されていることを考察していない。 ・本文における「饅頭」が果たしている役割を理解していない。 ・馬車が転落し、「蠅」だけが飛び去る結末から読み取れることをまとめていない。 ・他者の考えを聞いて、解釈の違いに気づいていない。
主体的に学習に取り組む態度	⑥考察・話し合い	・作品の主題について複数の観点から考え、話し合いを通して考察を深めようとしている。	・作品の主題について複数の観点から考え、話し合おうとしている。	・作品の主題について複数の観点から考え、話し合おうとしていない。

■「【言語活動】さまざまな資料を調べて発表する」ルーブリック例

観点		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
知識・技能	①言葉の働き (1) ア	・ 作品や資料について必要な言葉を理解し、正しく選択して発表しており、使用している以外の言葉や使われ方についても理解している。	・ 作品や資料について必要な言葉を理解し、正しく選択して発表している。	・ 作品や資料について必要な言葉を理解せず、正しく選択して発表していない。
	②文学作品の理解 (1) ウ	・ 文学作品に関する資料を読むことを通して、作品への解釈が広がることを理解し、根拠とともに説明している。	・ 文学作品に関する資料を読むことを通して、作品への解釈が広がることを理解している。	・ 文学作品に関する資料を読むことを通して、作品への解釈が広がることを理解していない。
	③表現の技法 (1) エ	・ 文学作品に関する資料を読むことを通して、使われている文体の特徴や修辞の技法について理解し、根拠とともに説明している。	・ 文学作品に関する資料を読むことを通して、使われている文体の特徴や修辞の技法について理解している。	・ 文学作品に関する資料を読むことを通して、使われている文体の特徴や修辞の技法について理解していない。
思考・判断・表現	④作品の解釈 読(1) オ	・ 作品が成立した背景やほかの作品との関係を調べ、作品の解釈を深め、その内容を説明している。	・ 作品が成立した背景やほかの作品との関係を調べ、作品の解釈を深めている。	・ 作品が成立した背景やほかの作品との関係を調べ、作品の解釈を深めていない。
	⑤考えの比較 読(1) キ	・ 作品に関するさまざまな資料を読むことを通して、作品についての自分のものの見方や感じ方、考え方を深め、説明している。 ・ 他者の発表を聞くことで、作品についての自分の考えを深め、説明している。	・ 作品に関するさまざまな資料を読むことを通して、作品についての自分のものの見方や感じ方、考え方を深めている。 ・ 他者の発表を聞くことで、作品についての自分の考えを深めている。	・ 作品に関するさまざまな資料を読むことを通して、作品についての自分のものの見方や感じ方、考え方を深めていない。 ・ 他者の発表を聞くことで、作品についての自分の考えを深めていない。
主体的に学習に取り組む態度	⑥考察	・ 作品に関するさまざまな資料を調べることを通して、作品が成立した背景やほかの作品との関係から作品の理解を深め、発表することで理解をより深めようとしている。	・ 作品に関するさまざまな資料を調べることを通して、作品が成立した背景やほかの作品との関係から作品の理解を深め、発表しようとしている。	・ 作品に関するさまざまな資料を調べることを通して、作品が成立した背景やほかの作品との関係から作品の理解を深め、発表しようとしていない。